

平成 26 年 4 月 7 日

県政記者クラブ各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

雫石町内の保育所（児童数 63 名、職員数 17 名）

2 有症者の状況等

- (1) 4月3日（木）、当該施設から県央保健所に、複数の児童が嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から、県央保健所が調査を開始し、3月29日（土）から4月7日（月）にかけて、25名（児童22名、職員3名）に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 患者は、いずれも回復傾向（重症者、入院者なし）。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員 20歳代	合計
男	0	2	2	2	3	7	0	16
女	0	2	1	1	0	2	3	9
計	0	4	3	3	3	9	3	25

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者4名（児童3名及び職員1名）からノロウイルスを確認。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 7 日 (平成 26 年度累計)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 4 月 7 日 (平成 25 年度累計)	0 (71)	0 (6)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 4 月 7 日 (平成 24 年度累計)	1 (52)	1 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	2 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 4 月 14 日

県政記者クラブ各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

雫石町内の保育所（児童数 94 名、職員数 27 名）

2 有症者の状況等

- (1) 4月10日（木）、当該施設から県央保健所に、複数の児童が嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から、県央保健所が調査を開始し、4月4日（金）から4月14日（月）にかけて、24名（児童22名、職員2名）に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 患者は、いずれも回復傾向（重症者、入院者なし）。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員 20～30歳代	合計
男	1	1	5	3	2	0	12
女	4	0	4	2	0	2	12
計	5	1	9	5	2	2	24

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者7名（児童6名及び職員1名）からノロウイルスを確認。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 14 日 (平成 26 年度累計)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 4 月 14 日 (平成 25 年度累計)	1 (71)	1 (6)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	2 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 4 月 14 日 (平成 24 年度累計)	2 (52)	1 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	3 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 4 月 15 日

県政記者クラブ各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

雫石町内の小学校（児童数 344 名、職員数 31 名）

2 有症者の状況等

- （1） 4月11日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の児童が嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から、県央保健所が調査を開始し、4月10日（木）から4月15日（火）にかけて、16名（児童15名、職員1名）に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- （3） 患者は、いずれも回復傾向（重症者、入院者なし）。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	職員 30歳代	合計
男	0	5	0	0	0	2	1	8
女	0	8	0	0	0	0	0	8
計	0	13	0	0	0	2	1	16

3 原因究明の調査等

- （1） 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者6名（児童5名及び職員1名）からノロウイルスを確認。
- （2） 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 15 日 (平成 26 年度累計)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 4 月 15 日 (平成 25 年度累計)	1 (71)	1 (6)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	2 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 4 月 15 日 (平成 24 年度累計)	2 (52)	1 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	3 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 4 月 17 日

県政記者クラブ各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

八幡平市内の保育所（児童数 104 名、職員数 20 名）

2 有症者の状況等

- (1) 4月11日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から、県央保健所が調査を開始し、4月8日（火）から4月16日（水）にかけて、園児 36 名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 患者は、いずれも回復傾向（重症者、入院者なし）。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男	1	4	4	6	4	3	22
女	1	0	2	5	2	4	14
計	2	4	6	11	6	7	36

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 5 名からノロウイルスを確認。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 17 日 (平成 26 年度累計)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 4 月 17 日 (平成 25 年度累計)	1 (71)	1 (6)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	2 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 4 月 17 日 (平成 24 年度累計)	3 (52)	3 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	6 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 4 月 28 日

県政記者クラブ各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

紫波町内の小学校（児童数 478 名、職員数 34 名）

2 有症者の状況等

- （1） 4月24日（木）、当該施設から県央保健所に、複数の児童が、嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から、県央保健所が調査を開始し、4月14日（月）から4月28日（月）にかけて、児童55名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- （3） 有症者は、いずれも回復傾向（重症者、入院者なし）。

【有症者の性別・学年別構成】

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	3	4	10	5	2	2	26
女	2	2	17	4	2	2	29
計	5	6	27	9	4	4	55

3 原因究明の調査等

- （1） 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者5名からノロウイルスを確認。
- （2） 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 4 月 28 日 (平成 26 年度累計)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 4 月 28 日 (平成 25 年度累計)	1 (71)	2 (6)	1 (2)	0 (2)	0 (1)	4 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 4 月 28 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	7 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	11 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 5 月 15 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

一関市内の幼稚園（児童数 125 名、職員数 18 名）

2 有症者の状況等

- (1) 5月12日(月)、管内医療機関及び当該施設から一関保健所に、複数の園児及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から、一関保健所が調査を開始し、5月8日(木)から5月13日(火)にかけて、園児24名と職員1名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 有症者及び入院者1名は、いずれも回復傾向。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	満3歳児 クラス	3歳児	4歳児	5歳児	職員	合計
男		5	5	3	1	14
女	2	4(1)	3	2		11
計	2	9(1)	8	5	1	25

※ () 内は、入院者再掲

3 原因究明の調査等

- (1) 県環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者5名からノロウイルスを確認。
- (2) 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 14 日 (平成 26 年度累計)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 5 月 14 日 (平成 25 年度累計)	3 (71)	2 (6)	1 (2)	0 (2)	0 (1)	6 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 5 月 14 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	7 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	11 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 5 月 20 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりロタウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

一関市内の保育園（児童数 122 名、職員数 42 名）

2 有症者の状況等

- （1） 5月19日（月）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から一関保健所が調査を開始し、5月16日（金）から5月19日（月）にかけて、園児12名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- （3） 有症者及び入院者5名は、いずれも回復傾向。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3～5歳児	合計
男	0	5(2)	1(1)	0	6(3)
女	3(1)	3(1)	0	0	6(2)
計	3(1)	8(3)	1(1)	0	12(5)

※（ ）内は、入院者再掲

3 原因究明の調査等

- （1） 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者5名からロタウイルスを確認。
- （2） 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 20 日 (平成 26 年度累計)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 5 月 14 日 (平成 25 年度累計)	3 (71)	2 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	7 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 5 月 14 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	7 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	11 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 5 月 22 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

釜石市内の保育所（児童数 68 名、職員数 24 名）

2 有症者の状況等

- (1) 5月19日(月)、当該施設から釜石保健所に、複数の児童が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から釜石保健所が調査を開始し、5月14日(水)から5月21日(水)にかけて、園児22名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 有症者及び入院者1名は回復傾向。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	2～3 歳児	4～5 歳児	6 歳児	合計
男	3	5	3 (1)	11(1)
女	3	6	2	11
計	6	11	5(1)	22(1)

※ () 内は、入院者再掲

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者3名からノロウイルスを確認。
- (2) 釜石保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 釜石保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 21 日 (平成 26 年度累計)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 5 月 21 日 (平成 25 年度累計)	3 (71)	3 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	8 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 5 月 21 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	7 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	11 (67)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 5 月 26 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

北上市内の小学校（児童数 709 名、職員数 50 名）

2 有症者の状況等

- （1） 5月22日（木）、北上市教育委員会から中部保健所に、複数の児童が、嘔吐等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から中部保健所が調査を開始し、5月20日（火）から5月24日（土）にかけて、児童34名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- （3） 有症者及び入院者1名は回復傾向。

【有症者の性別・クラス別構成】

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	3	2	4	10	1	1	21
女	1	1	1	6(1)	2	2	13(1)
計	4	3	5	16(1)	3	3	34(1)

※（ ）内は、入院者再掲

（単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 環境保健研究センター等で実施した糞便検査の結果、有症者7名からノロウイルスを確認。
- （2） 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 26 日 (平成 26 年度累計)	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 5 月 26 日 (平成 25 年度累計)	5 (71)	3 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	10 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 5 月 26 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	8 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	12 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 5 月 30 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

二戸市内の保育所（園児数 132 名、職員数 25 名）

2 有症者の状況等

- (1) 5月28日(水)、当該施設から二戸保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から二戸保健所が調査を開始し、5月17日(土)から5月26日(月)にかけて、園児34名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男	0	1	2	4	1	4	12
女	2	11	3	1	3	2	22
計	2	12	5	5	4	6	34

(単位:人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者6名からノロウイルスを確認。
- (2) 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 二戸保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 5 月 30 日 (平成 26 年度累計)	14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 5 月 30 日 (平成 25 年度累計)	5 (71)	3 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	10 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 5 月 30 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	8 (10)	0 (4)	0 (1)	0 (0)	12 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 6 月 18 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

釜石保健所管内の小学校（児童数 101 名、職員数 18 名）

2 有症者の状況等

- （1） 6月13日（金）、当該施設から釜石保健所に、複数の児童が、嘔吐・下痢・腹痛等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から釜石保健所が調査を開始し、6月10日（火）から6月15日（日）にかけて、児童14名に嘔吐・下痢・腹痛等の症状があったことを確認。
- （3） 有症者は回復傾向。

【有症者の性別・学年別構成】

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	2	1	1	0	3	0	7
女	3	1	0	0	2	1	7
計	5	2	1	0	5	1	14

（単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者4名からノロウイルスを確認。
- （2） 釜石保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 釜石保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 6 月 18 日 (平成 26 年度累計)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 6 月 18 日 (平成 25 年度累計)	6 (71)	4 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	12 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 6 月 18 日 (平成 24 年度累計)	4 (52)	9 (10)	1 (4)	0 (1)	0 (0)	14 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 7 月 11 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

一戸町内の保育所（園児数 82 名、職員数 18 名）

2 有症者の状況等

- (1) 7 月 9 日（水）、当該施設から二戸保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢・腹痛等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から二戸保健所が調査を開始し、7 月 1 日（火）から 7 月 10 日（木）にかけて、園児 16 名に嘔吐・下痢・腹痛等の症状があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	合計
男	0	2	4	1	0	2	1	10
女	2	0	2	0	1	1	0	6
計	2	2	6	1	1	3	1	16

(単位:人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 3 名からノロウイルスを確認。
- (2) 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 二戸保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	サポ ウイルス	アストロ ウイルス	アデノ ウイルス	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 7 月 11 日 (平成 26 年度累計)	17 (17)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 7 月 11 日 (平成 25 年度累計)	7 (71)	4 (6)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	13 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 7 月 11 日 (平成 24 年度累計)	5 (52)	9 (10)	2 (4)	0 (1)	0 (0)	16 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 11 月 21 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

花巻市内の保育所（園児数 73 名、職員数 21 名）

2 有症者の状況等

- (1) 11 月 19 日（水）、当該施設から中部保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から中部保健所が調査を開始し、11 月 17 日（月）から 11 月 20 日（木）にかけて、22 名（園児 20 名、職員 2 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者 2 名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	職員 20 代	職員 40 代	合計
男	4 (2)	2	0	0	2	1	0	0	9
女	4	1	0	1	1	4	1	1	13
計	8 (2)	3	0	1	3	5	1	1	22

※ () 内は入院者再掲

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者等 5 名からノロウイルスを検出。
- (2) 中部保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 中部保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (アデノウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 11 月 21 日 (平成 26 年度累計)	19 (19)	2 (2)	1 (1)	22 (22)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 11 月 21 日 (平成 25 年度累計)	9 (71)	4 (6)	3 (5)	16 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 11 月 21 日 (平成 24 年度累計)	12 (52)	9 (10)	2 (5)	23 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 12 月 16 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

山田町内の老人福祉施設（入所者数 9 名、職員数 11 名）

2 有症者の状況等

- (1) 12 月 12 日（金）、当該施設から宮古保健所に、複数の入所者及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から宮古保健所が調査を開始し、12 月 6 日（土）から 12 月 14 日（日）にかけて、10 名（入所者 6 名、職員 4 名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者 0 名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	入所者 70 歳代	入所者 80 歳代	職員 20 代	職員 30 代	職員 40 代	職員 50 代	計
男	1	0	1	1	0	0	3
女	1	4	0	0	1	1	7
計	2	4	1	1	1	1	10

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者 2 名からノロウイルスを検出。
- (2) 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内 5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 12 月 16 日 (平成 26 年度累計)	20 (20)	2 (2)	3 (3)	25 (25)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 12 月 16 日 (平成 25 年度累計)	19 (71)	4 (6)	3 (5)	26 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 24 年 12 月 16 日 (平成 24 年度累計)	29 (52)	9 (10)	5 (5)	43 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 26 年 12 月 26 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が2件ありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 奥州市内の保育所

(1) 施設の概要

奥州市内の保育所（在籍者数 133 名、職員数 35 名）

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 25 日（木）、当該施設から奥州保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から奥州保健所が調査を開始し、12 月 10 日（木）から 12 月 25 日（木）にかけて、園児 19 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者 0 名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区 分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	計
園児 男	0	6	1	1	2	1	1	12
園児 女	0	3	2	0	0	2	0	7
計	0	9	3	1	2	3	1	19

(3) 原因究明の調査等

ア 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者 1 名からノロウイルスを検出。

イ 奥州保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 奥州保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 宮古市内の特別養護老人ホーム

(1) 施設の概要

宮古市内の特別養護老人ホーム（利用者数 75 名、職員数 56 名）

(2) 有症者の状況等

ア 12 月 21 日（日）、当該施設から宮古保健所に、複数の入所者及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から宮古保健所が調査を開始し、12 月 20 日（土）から 12 月 25 日（木）にかけて、

25名（利用者17名、職員8名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
 ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者0名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	利用者 60歳代	利用者 70歳代	利用者 80歳代	利用者 90歳代	職員 10歳代	職員 20歳代	職員 40歳代	職員 50歳代	計
男	0	1	2	0	0	0	1	0	4
女	1	2	8	3	1	1	0	5	21
計	1	3	10	3	1	1	1	5	25

（単位：人）

(3) 原因究明の調査等

- ア 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者10名からノロウイルスを検出。
- イ 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- ウ 宮古保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合計
平成26年4月1日～ 平成26年12月26日 (平成26年度累計)	22 (22)	2 (2)	3 (3)	27 (27)
平成25年4月1日～ 平成25年12月26日 (平成25年度累計)	30 (71)	4 (6)	3 (5)	37 (82)
平成24年4月1日～ 平成24年12月26日 (平成24年度累計)	30 (52)	9 (10)	5 (5)	44 (67)

（単位：件）

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は85℃以上・1分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

平成 27 年 1 月 14 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

久慈保健所管内の老人福祉施設（利用者数 90 名、職員数 73 名）

2 有症者の状況等

- (1) 1月7日（水）、当該施設から久慈保健所に、複数の入所者及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から久慈保健所が調査を開始し、1月3日（土）から1月12日（月）にかけて、53名（入所者39名、職員14名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	入所者 70代	入所者 80代	入所者 90代	職員 20代	職員 30代	職員 40代	職員 50代	計
男	3	2	1	2	2	1	0	11
女	3	15	15	6	0	1	2	42
計	6	17	16	8	2	2	2	53

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者5名からノロウイルスを検出。
- (2) 久慈保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 久慈保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 14 日 (平成 26 年度累計)	23 (23)	2 (2)	3 (3)	28 (28)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 14 日 (平成 25 年度累計)	37 (71)	4 (6)	3 (5)	44 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 14 日 (平成 24 年度累計)	32 (52)	9 (10)	5 (5)	46 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 1 月 19 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

一関市内の保育所（園児数 93 名、職員数 29 名）

2 有症者の状況等

- （1） 1月15日（木）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から一関保健所が調査を開始し、1月5日（月）から1月15日（木）にかけて、22名（園児21名、職員1名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- （3） 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員	合計
男	3	2	1	3	0	2	0	11
女	2	1	2	1	3	1	1	11
計	5	3	3	4	3	3	1	22

（単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。
- （2） 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 19 日 (平成 26 年度累計)	25 (24)	2 (3)	3 (3)	30 (30)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 19 日 (平成 25 年度累計)	40 (71)	4 (6)	3 (5)	47 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 19 日 (平成 24 年度累計)	34 (52)	9 (10)	5 (5)	48 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 1 月 26 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

雫石町内の保育所（園児数 96 名、職員数 23 名）

2 有症者の状況等

- (1) 1月23日(金)、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から県央保健所が調査を開始し、1月19日(月)から1月23日(金)にかけて、24名(園児21名、職員3名)に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員	合計
男	6	0	2	1	1	3	0	13
女	3	2	0	0	1	2	3	11
計	9	2	2	1	2	5	3	24

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者6名からノロウイルスを検出。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 26 日 (平成 26 年度累計)	30 (30)	2 (2)	3 (3)	35 (35)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 26 日 (平成 25 年度累計)	43 (71)	4 (6)	3 (5)	50 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 26 日 (平成 24 年度累計)	35 (52)	9 (10)	5 (5)	49 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 1 月 29 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

紫波町内の保育所（園児数 120 名、職員数 34 名）

2 有症者の状況等

- （1） 1月23日（金）、当該施設から県央保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- （2） 同日から県央保健所が調査を開始し、1月21日（水）から1月28日（水）にかけて、22名（園児19名、職員3名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- （3） 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員			合計
							20歳代	40歳代	50歳代	
男	3	4	2	0	1	2	0	0	0	12
女	4	1	1	0	0	1	1	1	1	10
計	7	5	3	0	1	3	1	1	1	22

（単位：人）

3 原因究明の調査等

- （1） 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者8名からノロウイルスを検出。
- （2） 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- （3） 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 29 日 (平成 26 年度累計)	32 (32)	2 (2)	3 (3)	37 (37)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 29 日 (平成 25 年度累計)	43 (71)	4 (6)	3 (5)	50 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 29 日 (平成 24 年度累計)	36 (52)	9 (10)	5 (5)	50 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 1 月 30 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

宮古市内の老人福祉施設（入所者数 104 名、職員数 51 名）

2 有症者の状況等

- (1) 1月28日(水)、当該施設から宮古保健所に、複数の入所者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から宮古保健所が調査を開始し、1月24日(土)から1月30日(金)にかけて、20名（入所者18名、職員2名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	70 歳代	80 歳代	90 歳代	職員	合 計
				30 歳代	
男	1	1	1	1	4
女	5	6	4	1	16
計	6	7	5	2	20

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関が実施した糞便検査の結果、有症者5名からノロウイルスを確認。
- (2) 宮古保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 宮古保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 30 日 (平成 26 年度累計)	34 (34)	2 (2)	3 (3)	39 (39)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 30 日 (平成 25 年度累計)	43 (71)	4 (6)	3 (5)	50 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 30 日 (平成 24 年度累計)	36 (52)	9 (10)	5 (5)	50 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 2 月 3 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が2件ありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 大船渡市内の認定こども園

(1) 施設の概要

大船渡市内の認定こども園（在籍者数 46 名、職員数 15 名）

(2) 有症者の状況等

ア 1月30日（金）、当該施設から大船渡保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から大船渡保健所が調査を開始し、1月26日（月）から1月30日（金）にかけて、園児14名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者0名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区 分	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	職員		計
					50 歳代	60 歳代	
男	3	1	0	0	0	0	4
女	3	2	1	1	2	1	10
計	6	3	1	1	2	1	14

（単位：人）

(3) 原因究明の調査等

ア 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者7名からノロウイルスを検出。

イ 大船渡保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 大船渡保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 軽米町内の小学校

(1) 施設の概要

軽米町内の小学校（児童数 248 名、職員数 24 名）

(2) 有症者の状況等

ア 1月30日（金）、学校から二戸保健所に、複数の児童が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から二戸保健所が調査を開始し、1月25日（日）から2月2日（月）にかけて、

児童 19 名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者 0 名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区 分	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	計
男	1	0	0	0	1	9	11
女	0	0	0	1	0	7	8
計	1	0	0	1	1	16	19

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

ア 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 4 名からノロウイルスを検出。

イ 二戸保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 二戸保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 3 日 (平成 26 年度累計)	36 (36)	2 (2)	4 (4)	42 (42)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 2 月 3 日 (平成 25 年度累計)	43 (71)	4 (6)	3 (5)	50 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 2 月 3 日 (平成 24 年度累計)	37 (52)	9 (10)	5 (5)	51 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】

平成 27 年 2 月 5 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

八幡平市内の介護老人保健施設（入所者数 70 名、職員数 49 名）

2 有症者の状況等

- (1) 2月2日（月）、当該施設から県央保健所に、複数の入所者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から県央保健所が調査を開始し、1月30日（金）から2月3日（火）にかけて、16名（入所者15名、職員1名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	70 歳代	80 歳代	90 歳代	職員	合 計
				50 歳代	
男	3	3	2	0	8
女	1	5	1	1	8
計	4	8	3	1	16

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターが実施した糞便検査の結果、有症者7名からノロウイルスを確認。
- (2) 県央保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 県央保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 30 日 (平成 26 年度累計)	39 (39)	2 (2)	4 (4)	45 (45)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 30 日 (平成 25 年度累計)	44 (71)	4 (6)	3 (5)	51 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 30 日 (平成 24 年度累計)	38 (52)	9 (10)	5 (5)	52 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 2 月 9 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

陸前高田市内の保育所（園児数 107 名、職員数 25 名）

2 有症者の状況等

- (1) 2月5日（木）、当該施設から大船渡保健所に、複数の園児及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から大船渡保健所が調査を開始し、1月31日（土）から2月6日（金）にかけて、24名（園児21名、職員3名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	職員		合計
						20歳代	50歳代	
男	0	1	4	2	1	0	0	8
女	1	3	4	3	2	2	1	16
計	1	4	8	5	3	2	1	24

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターが実施した糞便検査の結果、有症者4名からノロウイルスを確認。
- (2) 大船渡保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 大船渡保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 1 月 30 日 (平成 26 年度累計)	40 (40)	2 (2)	4 (4)	46 (46)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 1 月 30 日 (平成 25 年度累計)	44 (71)	4 (6)	4 (5)	52 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 1 月 30 日 (平成 24 年度累計)	39 (52)	9 (10)	5 (5)	53 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 2 月 17 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

一関市内の老人福祉施設（入所者数 79 名、職員数 55 名）

2 有症者の状況等

- (1) 2月13日(金)、当該施設から一関保健所に、複数の入所者及び職員が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から一関保健所が調査を開始し、2月10日(火)から2月16日(月)にかけて、12名（入所者10名、職員2名）に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	入所者 70代	入所者 80代	入所者 90代	職員 20代	職員 50代	合計
男	2	0	0	0	0	2
女	0	6	2	1	1	10
計	2	6	2	1	1	12

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者7名からノロウイルスを確認。
- (2) 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 一関保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 17 日 (平成 26 年度累計)	41 (41)	2 (2)	4 (4)	47 (47)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 2 月 17 日 (平成 25 年度累計)	50 (71)	4 (6)	5 (5)	59 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 2 月 17 日 (平成 24 年度累計)	39 (52)	9 (10)	5 (5)	53 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 2 月 19 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

釜石市内の老人福祉施設（入所者数 90 名、職員数 59 名）

2 有症者の状況等

- (1) 2月16日(月)、当該施設から釜石保健所に、複数の入所者が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 釜石保健所が調査を実施し、1月31日(土)から2月17日(火)にかけて、28名(入所者24名、職員4名)に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	入所者 70代	入所者 80代	入所者 90代	職員 20代	職員 30代	職員 50代	合計
男	1	4	1	1	0	0	7
女	1	9	8	1	1	1	21
計	2	13	9	2	1	1	28

(単位：人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者4名からノロウイルスを確認。
- (2) 釜石保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 釜石保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【担当 感染症担当 高橋・平藤 内5472】

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 19 日 (平成 26 年度累計)	43 (43)	2 (2)	5 (5)	50 (50)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 2 月 19 日 (平成 25 年度累計)	52 (71)	4 (6)	5 (5)	61 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 2 月 19 日 (平成 24 年度累計)	39 (52)	9 (10)	5 (5)	53 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 2 月 23 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生がありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 施設の概要

釜石市内の小学校

2 有症者の状況等

- (1) 2月19日(木)、当該施設から釜石保健所に、複数の児童が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。
- (2) 同日から釜石保健所が調査を開始し、2月12日(木)から2月23日(月)にかけて、児童21名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。
- (3) 有症者は回復傾向にあり、入院者0名、重症者なし。

【有症者の性別・学年別構成】

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	2	0	2	2	3	1	10
女	0	0	2	5	2	2	11
計	2	0	4	7	5	3	21

(単位:人)

3 原因究明の調査等

- (1) 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者2名からノロウイルスを確認。
- (2) 釜石保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。
- (3) 釜石保健所は、当該施設に対し手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 2 月 23 日 (平成 26 年度累計)	44 (44)	2 (2)	5 (5)	51 (51)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 2 月 23 日 (平成 25 年度累計)	54 (71)	4 (6)	5 (5)	63 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 2 月 23 日 (平成 24 年度累計)	40 (52)	9 (10)	5 (5)	54 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

平成 27 年 3 月 9 日

県政記者クラブ 各位

岩手県保健福祉部医療政策室

感染性胃腸炎の集団発生について

次のとおりノロウイルスによる「感染性胃腸炎」の集団発生が2件ありましたので、県民に対する注意喚起のため、お知らせします。

1 一関市内の保育所

(1) 施設の概要

一関市内の保育所（園児数 67 名、職員数 18 名）

(2) 有症者の状況等

ア 3月5日（木）、当該施設から一関保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から一関保健所が調査を開始し、2月25日（水）から3月6日（金）にかけて、園児21名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者0名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男	2	1	3	4	1	1	12
女	1	3	2	2	1	0	9
計	3	4	5	6	2	1	21

（単位：人）

(3) 原因究明の調査等

ア 医療機関で実施した糞便検査の結果、有症者3名からノロウイルスを検出。

イ 一関保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 一関保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

2 釜石市内の保育所

(1) 施設の概要

釜石市内の保育所（園児数 80 名、職員数 18 名）

(2) 有症者の状況等

ア 3月4日（水）、当該施設から釜石保健所に、複数の園児が、嘔吐・下痢等の症状を呈している旨の連絡。

イ 同日から釜石保健所が調査を開始し、3月3日（火）から3月6日（金）にかけて、園児25名に嘔吐・下痢等の発症があったことを確認。

ウ 有症者は回復傾向にあり、入院者 0 名。

【有症者の性別・年齢別構成】

区 分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	職員		計
							20 歳代	60 歳代	
男	0	2	0	1	2	4	0	0	9
女	1	7	2	0	1	3	1	1	16
計	1	9	2	1	3	7	1	1	25

(単位：人)

(3) 原因究明の調査等

ア 環境保健研究センターで実施した糞便検査の結果、有症者 6 からノロウイルスを検出。

イ 釜石保健所が実施した疫学調査から、施設の食事を原因とする食中毒の可能性は否定。

ウ 釜石保健所は、当該施設に対し、手洗い消毒等の二次感染対策について指導。

【参考】

感染性胃腸炎は、多種多様な原因病原体による症候群名であり、主な原因病原体はノロウイルス及びロタウイルスであり、その他、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス等が散見される。

(1) 感染性胃腸炎の集団発生の状況（岩手県内、盛岡市分を含む）

区 分	ノロウイルス	ロタウイルス	その他 (サポウイルス等)	合 計
平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 3 月 9 日 (平成 26 年度累計)	48 (48)	2 (2)	5 (5)	55 (55)
平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 3 月 9 日 (平成 25 年度累計)	64 (71)	4 (6)	5 (5)	73 (82)
平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 3 月 9 日 (平成 24 年度累計)	45 (52)	9 (10)	5 (5)	59 (67)

(単位：件)

(2) ウイルス性胃腸炎の予防方法

- ① 用便後、調理前、食事前には、石けんで十分な手洗いを行う。
- ② 食事を調理する場合、加熱が必要な食品は 85℃以上・1 分間以上で十分に加熱する。
- ③ 吐いた場合は、部屋の換気を十分に行ないながら、なるべくマスクやビニール手袋等を用いて片付け、嘔吐した場所を塩素系漂白剤で消毒する。
- ④ おう吐物や糞便などを片付けた用具、雑巾類は塩素系漂白剤で消毒する。
- ⑤ おう吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

【担当 感染症担当 高橋 内 5472】